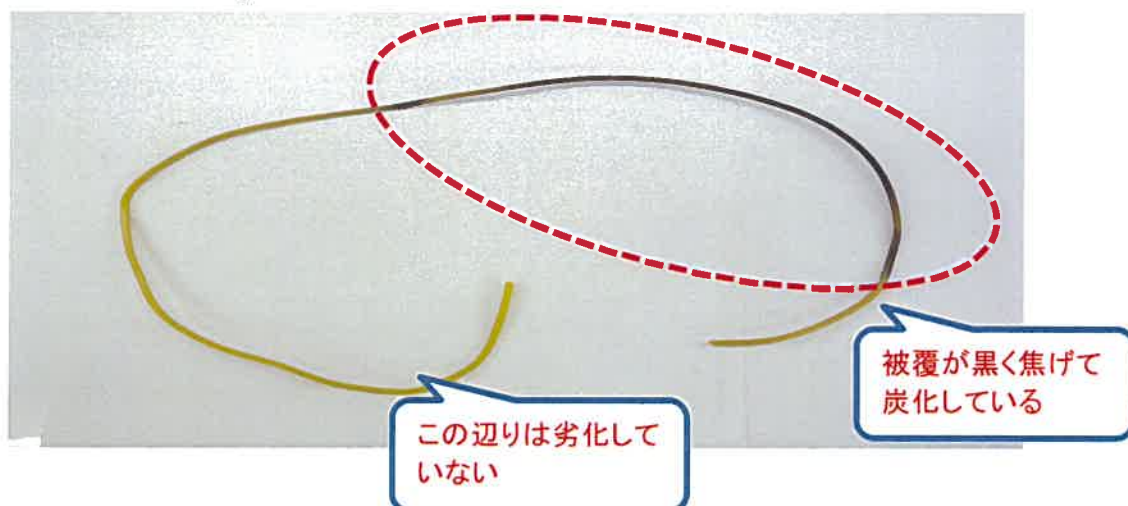


2016.11.9

電線の劣化によるリスク回避のご紹介(パネル事業部より)

主に制御回路に使用するⅠV線、KⅠV線は耐熱温度が60℃となっており、電線が継続的に高熱にさらされる環境にある電線表面の絶縁被覆が劣化していきます。



炭化すると被覆は絶縁性がなくなり電気を通し、地絡や短絡、感電の危険があり、設備の故障や漏電火災、場合によっては人身事故につながる災害となります。

このような原因としては、

- ①電線の許容電流以上の電流が流れてしまっている。
 - ②ダクト内の配線で、ダクトサイズいっぱい配線が詰まっていて放熱されない。
 - ③大電流が流れる動力線(MLFC線)と一緒に結束、又はダクト内に入っている。
- などの条件が単体、又は複数重なることにより発生する可能性があります。

設備の改修や増設などにより配電盤を改造して電線が増えたりすると、上記の条件が発生する可能性があるため、設備の改修後などにも定期的に点検やメンテナンスすることで、リスクを減らせます。

(株)成電工業 パネル事業部 木村
お問合せ先 027-343-5111